PBR LENDING

QUARTERLY REPORT

25-3Q

2025 7-9

PORTOBELLO ROAD

PBR Highlights Dashboard | 25-3Q

運用レポートの情報をこの一枚に。
2025年 7月-9月の実績と動きの概況が、ひと目でわかります。

運用成績

+3.2%

前Q差：-0.7%

年率換算

+13.9%

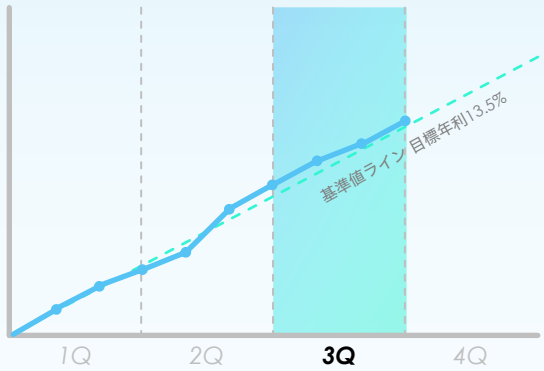
前Q差：-0.5%

基準との差

+0.4%

前Q差：-0.3%

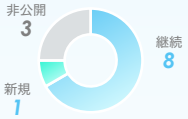
パフォーマンス



運用パートナー

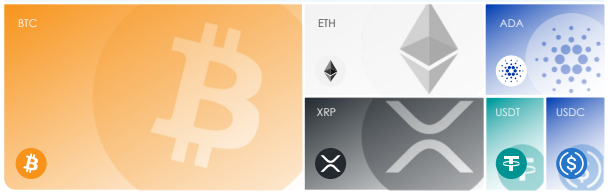
*1 12

前Q差：+1



運用通貨割合

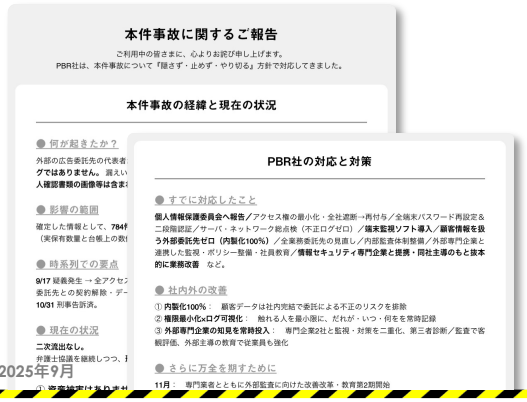
*1



2周年記念還元祭はおかげさまで大盛況でした。



顧客情報漏洩事件が発生。
全社を上げてゼロから見直し再出発しています。



返還申請から完了までの平均営業日数

1.9日

前Q差：-0.9日

目標： 3 営業日以内
規約： 7 営業日以内

※土日祝・夏季休業中は除く

遅延・未払件数

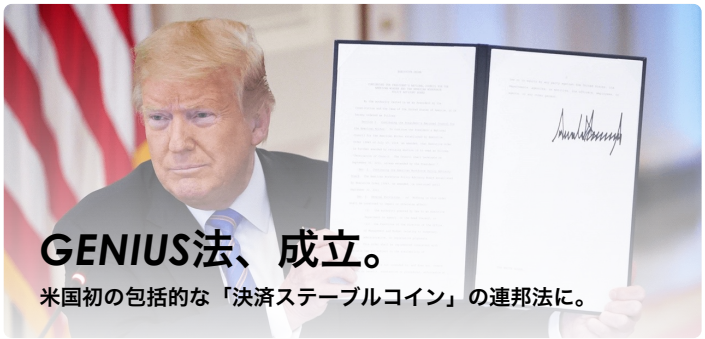
0件

前Q差：0件

事件・事故件数

1件

前Q差：+1件





※1 運用先との契約のため、一部の情報は非公開としています。

PBR Highlights Dashboard | 解説

PBR Highlights Dashboard では、対象期間の運用実績やサービス指標などをまとめて表示しています。
はじめてご覧になる方は、どうぞこちらの解説と合わせてご覧ください。

● 投資運用情報

期間中の運用関連重要指標を
まとめて表示しています。

年・四半期

本資料の該当期間を表示しています。
25-3Q = 2025年 第3四半期　（Q = 四半期）

運用成績

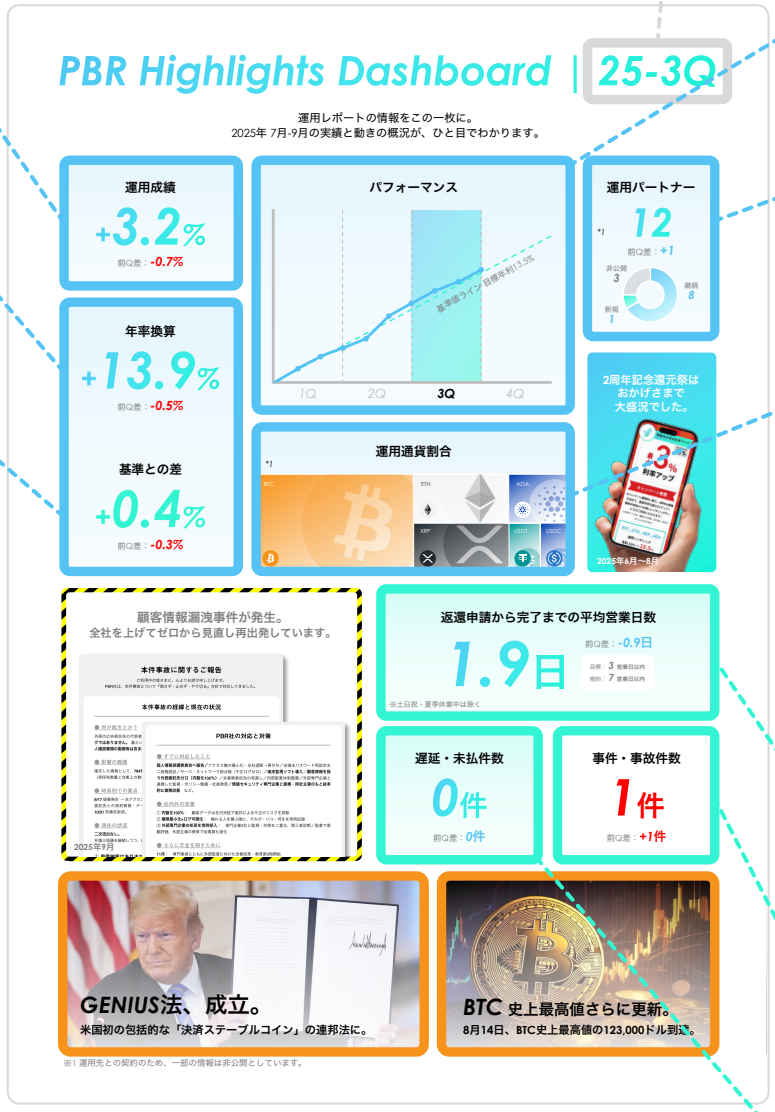
3ヵ月合計の
運用成績（損益率）を
前Q差と共に
表示しています。

年率換算

運用成績を元に
年に換算した損益率を
前Q差と共に
表示しています。

基準との差

年率換算の損益率を
基準値と比べ
前Q差と共に
表示しています。
（基準値 = 目標年利13.5%）



パフォーマンス

月別損益率グラフ
を基準値と比べ傾向を
表示しています。

運用パートナー

投資運用先の数を
前Q差と共に
表示しています。
（継続・新規・非公開）

運用通貨割合

運用している通貨割合を
概算割合として
面積で表示しています。

各運用先との契約内容が
異なるため概算としています。

● サービス指標

期間中のサービス重要指標を
まとめて掲載しています。

返還申請から完了までの平均営業日数

申請から返還までの
平均営業日数を
前Q差と共に
表示しています。

事件・事故件数

事件や事故の発生件数を
前Q差と共に
表示しています。

遅延・未払件数

返還を規定日、未払など
の発生件数を
前Q差と共に
表示しています。

● 暗号資産NEWS

期間中の注目を浴びた
暗号資産NEWSを
紹介しています。

01 マーケットダイジェスト

世界の景気動向から金融・暗号資産のトレンドまで、四半期ごとの重要ポイントを凝縮。
期間中のマーケット全体を一枚で振り返れるレポートです。



世界経済・金融市場概況

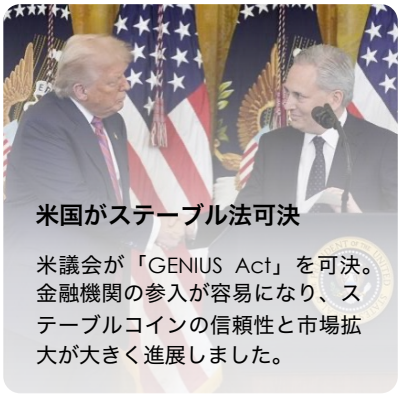
2025年7〜9月期の世界経済は、IMFが2025年の世界成長率を3.2%と見込むように減速基調ながらも景気後退は回避しました。米国は4〜6月期に年率+3.8%と高成長だった反動で伸びが鈍りつつも消費は底堅く、FRBは9月に利下げを開始し、インフレ対応から景気配慮へ軸足を移しました。ユーロ圏は成長が低迷する一方、インフレはおおむね2%前後まで低下し、ECBは6月までの利下げ後は金利を据え置き。中国は不動産不況の影響で成長率が4%台後半に鈍化しつつも、アジア・新興国全体ではドル安と資本流入を背景に底堅さが維持されました。

世界の金融・投資市場では「高インフレとの闘い」から「成長安定とソフトランディング」へとテーマが移り、投資環境はリスク選好が優勢となりました。世界株式は第3四半期に一桁台後半のリターンとなり、AI関連を中心に米国ハイテク株とアジア株が上昇。日本株もTOPIX・日経平均ともに7〜9月期に約+11%上昇し、その後10月には日経平均が5万2千円台と史上最高値を更新しました。債券は米国で金利低下により米国債がプラス、欧州・日本の国債は金利上昇でやや軟調。商品では、景気懸念と供給増で原油が軟調な一方、各国中銀の買いと安全資産需要から金価格が2桁台の上昇で過去最高値圏に達しました。

為替市場では、米国の利下げと景気減速観測からドル指数が年初来で大きく下落する一方、日米金利差と日銀の慎重姿勢を背景に円は相対的に弱く、7〜9月期のドル/円はおおむね148円前後の円安水準で推移しました。ユーロ/ドルはドル安を受けて底堅く、ユーロ/円もその後11月に180円近辺と過去最高水準に接近するなど、円の弱さと欧州通貨の相対的な強さが意識されました。

暗号資産市場は、第3四半期にリスク選好の回復と規制面の前進を背景に再び活況を呈しました。ビットコインは夏場から秋口にかけて一時12万ドル超と史上最高値圏に乗せ、イーサリアムなど主要銘柄も上昇。暗号資産全体の時価総額は4兆ドル超へ拡大し、現物ETFやトークン化、ステーブルコインなどを通じて機関投資家の参加が進むなど、デジタル資産は伝統的な金融・投資市場とより深く結びつきつつあります。

暗号資産 注目ニュース *TOP3*



米国がステーブル法可決

米議会が「GENIUS Act」を可決。金融機関の参入が容易になり、ステーブルコインの信頼性と市場拡大が大きく進展しました。



ETH急騰と大型更新期待

ETHはBTCを上回る上昇。機関投資家の買いと年末予定"Fusaka"更新への期待、レイヤー2成長が価格を強く押し上げました。



米政府閉鎖懸念で変動

米政府閉鎖や金利不透明感で市場が一時乱高下。だがSOL ETF手続き前進などで暗号資産市場の底堅さが示されました。

02

暗号資産ダイジェスト

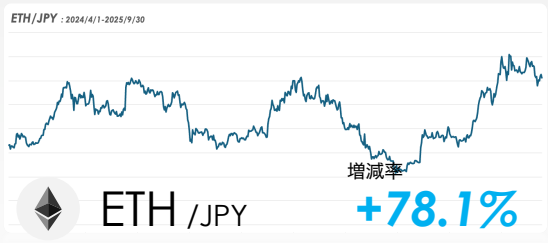
PBR LENDING が取り扱う6種類の暗号資産の動向と注目ニュースをまとめて掲載。
四半期の各暗号資産を手軽に振り返られる暗号資産レポートです。



史上最高値更新

2025年7月に12万ドル超で過去最高値を記録し8月も更新しましたが、その後景気懸念で反落し、9月末には約11.4万ドルで推移いたしました。

NEWS
8月：企業による保有が100万BTCを突破。
9月：FRBによる2025年初の利下げ。



四半期で66%の上昇（対米ドル）

7〜9月期に米ETF期待などを背景に価格が急騰し、四半期で約66%上昇いたしました。8月には一時約5,000ドル近くまで達しました。

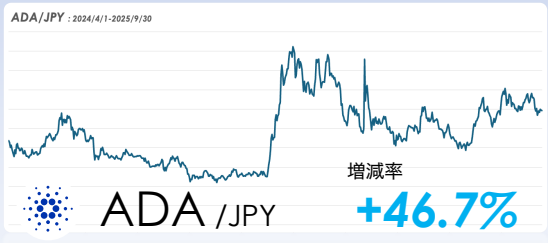
NEWS
7月：現物ETFのAUMが120億ドルに到達。
8/24：価格が4,951ドルの史上最高値を更新。



SEC訴訟終結で急騰

米SECとの訴訟終結により法的懸念が解消され、投資家心理が改善し、7月中頃には約3.5ドルまで到達。四半期で約27%上昇いたしました。

NEWS
7/18：価格が3.65ドルの高値を達成。
9月：現物XRP ETF申請が7件に拡大。



DeFi拡大で堅調上昇

DeFi利用拡大や技術開発進展を背景に四半期で約41%上昇し、8月中頃には約0.96ドルに達するなど堅調な推移を示しました。

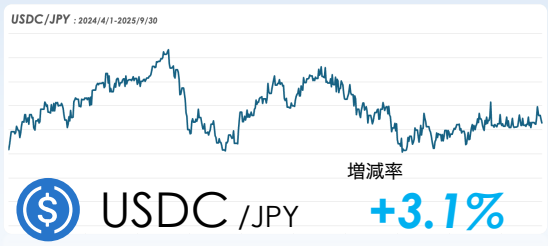
NEWS
8月：Wirexとの提携による新サービス公表。
9月：ビットコイン統合技術「BitVMX」公開。



ステーブルコイン需要に追い風

米ドルとのペッグは維持されましたが、ドル円の円安進行により、円建て価格は約143円から148円へと上昇いたしました。

NEWS
8/28：ビットコインRGBプロトコルとの統合。
9/30：時価総額1,750億ドルでQ3を締める。



Circle上場、規制進展で追い風

ドル連動型として価格はほぼ一定でしたが、円安の影響で円建て価格が上昇し、1USDCあたり約148円前後となりました。

NEWS
9月：ステーブルMAUが5,000万人に到達。
9月：決済総額がVisaを上回る場面を記録。

※ 表示している『 増減率 』は、レポート四半期期間の開始日と終了日の日本円換算値の増減率です。

03

パフォーマンス

運用成績の増減率や年率換算値、通貨割合などを掲載。
四半期ごとのパフォーマンスを一目で把握し、運用の傾向をご報告するページです。

運用成績

+3.9% ▶ **+3.2%**

前Q差：**-0.7%**

年率換算

+14.4% ▶ **+13.9%**

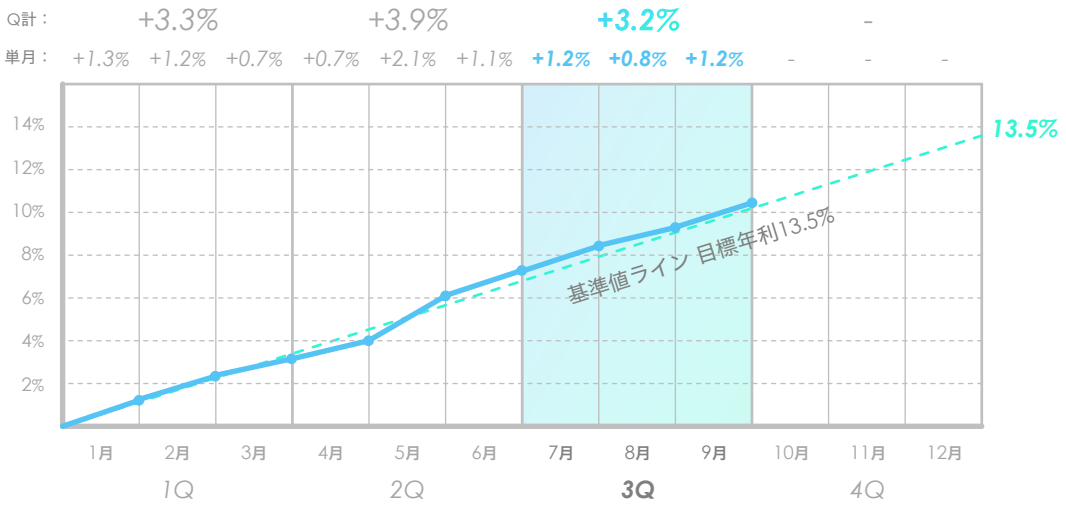
前Q差：**-0.5%**

基準との差

+0.7% ▶ **+0.4%**

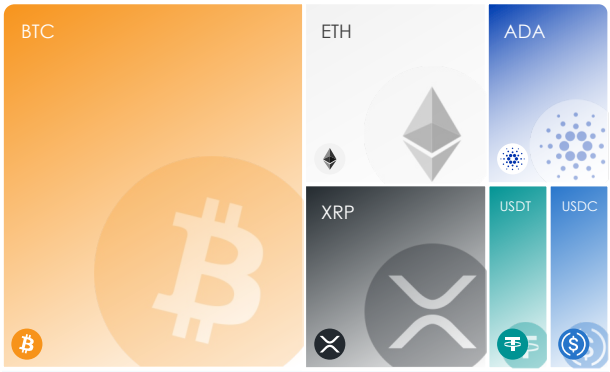
前Q差：**-0.3%**

パフォーマンス



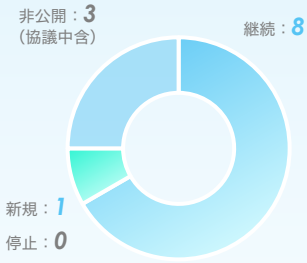
運用成績について

3Qの運用成績は+3.2%となり、着実な上昇トレンドを継続しました。年率換算では+13.9%で着地し、目標基準である13.5%を依然として上回っています。特に7月と9月にそれぞれ+1.2%の安定した伸びを記録したことが、期間を通じた底堅さを支えました。基準値との差も+0.4%のプラスを維持しており、計画通り順調なパフォーマンス推移でした。



運用通貨割合（概算割合）

新規運用先の影響でBTC比率が向上しましたが、全体的な調整も踏まえて大きな変化ない運用比率となりました。



運用パートナー数

11 ▶ **12**

前Q差：**+1**

運用ポートフォリオ

3Qから12社構成（+1）となり分散運用が進みました。
停止先は無く、新たに1社の運用を開始しました。

04

ポートフォリオ

投資・運用中のファンドの一覧です。
運用通貨や四半期の成績、年率換算値などをご報告するページです。

継続

香港 クリプトファンド A

トレンド予測とテクニカル指標のトレード運用

3Q成績	年率換算
+3.6%	+14.0%

日本 クリプトファンド A

テクニカル中心のアルゴリズムとロット管理運用システム

3Q成績	年率換算
+0.5%	+1.9%

マレーシア クリプトファンド A

4通貨を高頻度スワップアービトラージ

3Q成績	年率換算
+7.7%	+11.2%

日本 クリプト運用 B

独自開発のアルゴリズムによるテクニカル中心の運用

3Q成績	年率換算
+9.0%	+47.4%

香港 クリプトファンド A

テクニカル指標による予測アルゴリズム

3Q成績	年率換算
+2.4%	+12.4%

コモロ クリプトファンド A

トレンド予測とテクニカル指標のアルゴリズム

※ 2025年3Q（9月）で契約期間満了。

3Q成績	年利固定
+3.0%	+12.0%

日本 クリプト建て運用 C

独自のアルゴリズムで複数ポジションを個別利確

3Q成績	年利固定
+3.0%	+12.0%

韓国 クリプトファンド A

トレンド予測とテクニカル指標のアルゴリズム

3Q成績	年利固定
+3.0%	+12.0%

新規

日本 クリプトファンド D

50を超えるアルゴリズムが独立してトレード

3Q成績	年率換算
+2.1%	+8.4%

05 日本事業再投資フォーカス

PBR LENDING が再投資する、注目の日本事業投資先に焦点を当てご紹介しています。
（ この『 日本事業再投資フォーカス 』特集は、不定期での掲載です。）

2025年12月
増資決定！

防災用品製造企業

３分の１に芯が縮む画期的トイレットペーパー製造

3Q成績	年率換算	投資割合
+0.9%	+3.7%	☆







前回の運用レポートでも少し紹介させていただいた、「防災用品製造企業への投資案件」について、詳細をご報告申し上げます。

日本は、この数十年の間に、大規模な震災に何度となく襲われており、今後も、南海トラフをはじめとする大規模地震が起きることが確実視される災害大国です。東京では、各企業に災害用品の備蓄が努力義務として課されるなど、災害に強い街づくりを進めていくことが喫緊の課題となっています。

「防災用品製造企業への投資」という話ですが、ここにいう「防災用品」とは、「トイレットペーパー」という極めてシンプルな商品です。ある新進気鋭の起業家が、何か特許を取得できるような便利な発明はないかと試行錯誤を繰り返す中、洗濯機に付属する伸縮性のあるホースから発想を得て、伸縮性のあるトイレットペーパーの制作に取り組みました。まったく異なる業界からトイレットペーパー製造事業へと新規参入し、「トイレットペーパーにこれ以上改善するところなどない」と古参企業に冷笑されていた企業が、苦節数年、とうとう「芯が３分の１に縮むトイレットペーパー」を発明しました。このトイレットペーパーなら、今まで１個しか保存できなかったスペースに３個保存することができますし、持ち運びの楽さは今までの３倍です。このペーパーは、真空パックで包装されており、コンパクトになっていますが、包装を切ってトイレットペーパーの芯を伸ばすと、通常サイズのトイレットペーパーに戻ります。紙質は通常どおり、水に溶ける世界最高水準の日本のトイレットペーパーであり、その肌触りは、いったん縮めていた分、通常よりやわらかいというメリットがあります。

この企業は、創業以来、資金繰りに苦しみながらも、協力企業の援助を得て、ようやく商品開発に成功し、特許を取得するまでに成長しました。製造工程を整えることができれば、いよいよ大量生産から販売へと駒を進め、収益化がようやく見えてくる段階まできました。しかし、その製造工程を整えるためには、まだ大きな資金が必要になります。正直なところ、この企業の特許を狙って出資したいという事業者はいくらでもいます。実際、複数の企業から融資や提携を申し込まれながら、かたくなほど他社からの出資を受けてこなかったそうです。

そこへ、最良のパートナーとなったのがPBR（弊社PORTOBELLOROAD株式会社）です。暗号資産ファンドで増えた資金から、同社への共同事業出資を行いました。来年の６月ころには製造設備が整い、月間数億円の売上げが立ってきますので、弊社としてもリターンを楽しみに待ちたいと考えております。

会員の皆様には、いち早くサンプル商品をお届けしますので、事業の行く末に関心をお持ちいただき、また、新たなことにチャレンジするベンチャー企業を（ついでに弊社も）応援していただければ幸いです。

07

サービス

サービスの質向上に向けた取り組みをまとめた四半期レポート。
平均対応日数や改善状況などを通じて、サービスの動向をわかりやすく振り返ることができます。

返還申請から完了までの平均営業日数

2.8日 ▶ **1.9日**

前Q差：-0.9日

遅延・未払件数

0件

前Q差：0件

事件・事故件数

1件

前Q差：+1件

情報流出事件に伴う、情報セキュリティ改善進捗報告

本件につきまして、改めて多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたこと、心よりお詫び申し上げます。発生から三か月が経過した現在も、弊社では本件を重く受け止め、再発防止と信頼回復に向けた取り組みを継続しております。

社内体制の面では、情報セキュリティ専門会社の協力のもと、業務規程を厳格な視点から再構築いたしました。これらの規程は単なる文書整備に留めることなく、社内教育としてカリキュラム化し、理解度や運用状況を確認するための監査を定期的に実施しております。あわせて、業務プロセスの見直しも随時行い、情報管理の在り方を常に最新の水準へ引き上げる取り組みを進めております。また、外部からの不正アクセスに備えたネットワーク環境の強化、顧客情報および資産管理体制の再点検についても、引き続き専門家の助言を受けながら、より高い安全性を目指して改善を重ねております。本件に関する刑事告訴につきましては、警察への情報提供および聴取に誠実に対応しており、捜査は警察主導のもと、着実に前進しております。

弊社は今回の事態を教訓とし、現状に甘んじることなく、より安全で、より透明性の高い事業運営を追求してまいります。今後も改善の歩みを止めることなく、お客様に安心してご利用いただける環境づくりに全力を尽くしてまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

サービス改善

3Qは、返還完了までの平均営業日数が2.8日から1.9日に短縮され、前期比−0.9日と、前Qから更に短縮が進み、目標基準値としている3営業日を大幅に圧縮することができました。各返還金額帯でも遅延すること無くスムーズな資産返還を継続できています。
ただし、9月に重大な事件が発生したことにより、二度と事件や事故を起こさないよう全てを見直し続けています。

サポート改善

前Qに続き、より安心してご利用いただけるサポート体制づくりに取り組みました。特に、AIチャットボットの改善を重ねることで、よくあるご質問や基本的なご案内について、これまで以上にわかりやすくスムーズにご確認いただけるようになりました。また、直接お問い合わせをいただいた際にも、業務体制を安定的に維持することで、いつご連絡いただいても変わらない品質で対応できる環境を整えております。

08

25-3Q

四半期の運用状況や取り組み成果を総合的に振り返るまとめです。
成長の要因や市場動向、顧客対応の成果などをまとめ、この四半期の歩みをご報告いたします。

PBR LENDING からのメッセージ



2025年7月から9月にかけての第3四半期は、世界経済や金融市場、暗号資産市場において大きな動きが重なった期間でした。米国では金融政策が転換期を迎え、9月には利下げが開始されました。市場全体では、過度な悲観が後退する一方で、為替変動や国際情勢など、不安定さを感じさせる要素も多く、投資を取り巻く環境は決して一方向ではありませんでした。

そのような中、PBR LENDINGの3Q運用成績は+3.2%、年率換算では+13.9%となりました。前四半期と比較すると伸び率はやや落ち着いたものの、目標として掲げている年利13.5%を引き続き上回る水準を維持しています。大きな利益を狙う局面ではなく、「無理をしない」「続けられる」運用を優先した結果として、安定した数字を積み重ねることができた四半期であったと受け止めています。

暗号資産市場では、ビットコインが8月に史上最高値を更新し、イーサリアムやXRP、ADAなども大きく上昇しました。一方で、価格の変動幅は依然として大きく、短期的には不安を感じられた方もいらっしゃったかもしれません。PBR LENDINGでは、こうした局面においても特定の通貨や値動きに偏ることなく、複数の暗号資産とステーブルコインを組み合わせた分散運用を継続しています。急な相場変動に振り回されにくい構成を保つことを最優先に考え、結果として安定した運用推移につなげることができました。

運用体制については、3Qより運用パートナーが12社体制となり、分散性をさらに高めました。新たに1社の運用を開始しましたが、停止した運用先はなく、既存パートナーについても継続的に検証を行っています。複数のアルゴリズムや運用手法を組み合わせることで、特定の判断ミスや市場環境に左右されにくい体制づくりを進めています。

一方で、本四半期において、皆様に最もご心配をおかけした出来事として、顧客情報漏洩事件が発生したことがあります。本件につきましては、改めて深くお詫び申し上げます。現在も本件を重く受け止め、情報セキュリティ専門会社の協力のもと、業務規程の見直し、社内教育の徹底、定期的な監査、システムおよび情報管理体制の強化を継続しています。再発防止と信頼回復は、一時的な対応で終わるものではなく、今後も継続して取り組むべき最重要課題であると認識しています。

サービス面では、返還申請から完了までの平均営業日数が1.9日となり、目標としている3営業日を大きく下回る水準を維持できました。遅延や未払いは引き続き発生しておらず、「必要なときに、きちんと戻る」という当たり前を、着実に守り続けることができています。AIチャットボットの改善やサポート体制の安定化を進めることで、対応の早さだけでなく、安心してご相談いただける環境づくりにも努めてきました。

また、運用益の一部を国内事業へ再投資する取り組みも継続しています。防災用品製造やデータセンター開発といった分野への投資を通じて、暗号資産運用で得られた成果を、現実の価値や社会に役立つ形へとつなげることを目指しています。短期的な数字だけではなく、長く続く価値を大切にする姿勢を、今後も変えることはありません。

3Qは、成果と課題の両方を改めて見つめ直す四半期となりました。良い結果が出ている点に慢心することなく、反省すべき点から目を背けることもなく、より安心してご利用いただけるサービスを目指して改善を重ねてまいります。今後もPBR LENDINGは、「預けていて不安にならない運用」を何より大切にしながら、皆様とともに歩み続けていきたいと考えています。

END